

令和7年度

土屋中の教育

～夢に向かって～

希望の登校 笑顔の活動 満足の下校

第1学年



さいたま市立土屋中学校

○学校教育目標

「夢に向かって」

○目指す生徒像

毎日希望をもって登校し、学校では笑顔で活動し、毎日満足して下校する生徒を育成する。

「希望の登校 笑顔の活動 満足の下校」

1 土屋中学校の教育の特色

「生きる力」をはぐくむ教育の実現に向けて、基礎・基本の確実な定着を図る必要があります。本校では、「基礎・基本」を2つの視点からとらえ、学習活動の中で培えるようにします。

①各教科の学習で身につける資質・能力としての基礎・基本

②国家・社会の一員として、望ましい人間形成を図る上で必要な資質・能力である「豊かな自己を実現するために必要な力」としての基礎・基本

各教科の学習において、「基礎・基本」を確実に定着させるためには、「基礎・基本」を明確にし、それらがどれだけ身に着いたかを「評価」という「指導と評価の一体化」を図ることが大切であり、次の点を配慮しています。また、目標・学習内容・計画等を明記したシラバス（学習案内）を作成し、生徒が見通しをもって学習が進められるように努めています。

① 少人数指導（ティームティーチング）

保健体育科、数学科（1年生のみ）において、少人数指導により、複数の先生がきめ細やかな指導を行い、生徒が授業に取り組みやすいようにしています。

②観点別の評価規準に基づいた適切な評価

各教科において、単元・題材ごとの指導と評価計画を作成し、小テスト・自己評価カード・授業中の観察などにより、生徒の興味・関心を引き出す授業の工夫・改善に努めています。

2 教科等の時間配当表（年間35週） 合計の端数は、土曜授業などで行う授業に含まれます。

		1年	2年	3年
必修教科	国語	4（140）	4（140）	3（105）
	社会	3（105）	3（105）	4（140）
	数学	4（140）	3（105）	4（140）
	理科	3（105）	4（140）	4（140）
	音楽	1. 3（45）	1（35）	1（35）
	美術	1. 3（45）	1（35）	1（35）
	保体	3（105）	3（105）	3（105）
	技・家	2（70）	2（70）	1（35）
	G・S	4. 5（157）	4. 5（157）	4. 5（157）
特別の教科 道徳		1（35）	1（35）	1（35）
特別活動		1. 6（57）	1. 7（58）	1（35）
総合的な学習の時間		0. 7（24）	1. 5（53）	1. 5（53）
人間関係プログラム		0. 2（9）	0	0
合 計		29. 6（1037）	29. 7（1038）	29（1015）

3 評価・評定と通知票について

学校教育においては、確かな学力を育成するために、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させること、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力その他の能力をはぐくむことを重視して取り組んでいます。

学習指導と表裏をなしている評価について、通知票にも前述の趣旨を取り入れています。

本校の通知票は、学期ごとに作成し、配付します。必ず保護者が確認してください。

(1) 評価・・・観点別学習状況について

学習指導の過程や成果などを十分に把握できるよう、また、生徒が身に付けた学力の質的なものを重視するよう、評価としては次の3つの観点が示されています。そして、この3つの観点は、おおむね次のような学力を評価することを意図しています。

知識・技能	各教科等の知識及び技能を身につけ、それらを既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしている。
思考・判断・表現	各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力を身につけている。
主体的に学習に取り組む態度	各教科等の知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力を身につけたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習を調整しながら学ぼうとしている。

絶対評価として3段階で評価しています。

A：十分満足できる B：おおむね満足できる C：努力を要する

学期ごとに評価し通知票に記載します。また、全学期を総合して学年の学習状況を評価します。観点別学習状況評価のための資料(各教科ごとの観点的趣旨)については、5ページからの教科教育計画に学年ごとに記載してある通りです。なお、観点別学習状況の観点は、分析的評価を行うものとして、各教科の評定を行う場合の基本的な要素となっています。

(2) 評定について

各教科別に学習指導要領に示された目標に照らして、その実現状況を総括的に評価したものです。観点別評価を補完するものとして位置づけられ、5段階で表しています。評定については、学期ごとに評定し記録します。また、全学期を総合して学年の学習状況を評定します。

評 定	内 容
5	十分満足できると判断されるもののうち、特に高い程度のもの
4	十分満足できると判断されるもの
3	おおむね満足できると判断されるもの
2	努力を要すると判断されるもの
1	一層努力を要すると判断されるもの

(3) 観点別評価と評定について

評定	観点別評価 (A = 3 B = 2 C = 1)	点
5 または 4	AAA	9
4	AAB ABA BAA	8
3	AAC ABB ACA BAB BBA CAA	7
3	ABC ACB BAC BBB BCA CAB CBA	6
3	ACC BBC BCB CAC CBB CCA	5
2	BCC CBC CCB	4
1 または 2	CCC	3

(4) 行動の記録について

項目ごとに生徒一人ひとりのよさや特徴を積極的に見だし、今後に生かすものです。「十分満足できるもの」「顕著にみられた行動」に○印を記入します。1年間を総合した学年の記録に記載します。

※評価項目と評価の観点

評 価 項 目	主 な 評 価 の 観 点
基本的な生活習慣	礼儀正しく、規律ある生活をしている。
健康・体力の向上	心身の健康の保持と体力の向上に努めている。
自 主 ・ 自 律	公のルールを尊重し、自制心を持つの確な判断のもと行動する。
責 任 感	自らの言動に責任を持ち、最後までやり遂げる。
創 意 工 夫	工夫して物事にあたり、自分の考えや個性を生かす。
思いやり ・ 協力	思いやりと、感謝の心を持って人に接する。
生命尊重・自然愛護	進んで自然を愛護し、自他の生命を尊重する。
勤 労 ・ 奉 仕	勤労の尊さや意義を理解し、進んで仕事や奉仕活動をする。
公 正 ・ 公 平	善悪を見極め、差別や偏見を持つことなく正しい行動をする。
公共心 ・ 公德心	規則や文化・伝統を大切にし、公共のために進んで行動する。

(5) 特別活動の記録について

各教科、道徳、総合的な学習の時間、人間関係プログラム以外の活動の事実を記録しています。学級活動(委員・係等)、生徒会活動(生徒会役員等)、学校行事(各種実行委員等)、その他について記載します。

(6) 総合的な学習の時間の記録

総合的な学習の時間に行った学習活動について記録しています。各学年のテーマと、各個人の研究テーマを記載し、すべての学習活動終了後に、1年間を総合した学年の記録に活動状況を文章で記入します。

(7) 潤いの時間の記録について (1年のみ)

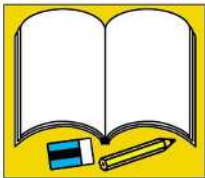
「人間関係プログラム」…1年間を総合した学年の記録に活動状況を記入します。

評価の観点	学習活動への関心・意欲・態度
	人と係わる際のスキル

(8) 特別の教科 道徳の評価について

道徳の授業で取り組んだこと、考えたことについて、1年間を総合した学年の記録に評価を文章で記載します。

4 生徒向け「学習の基本 土屋中スタンダード」について

学習の基本 土屋中スタンダード	
「授業規律・準備」 ・ 休み時間の過ごし方 ・ あいさつの仕方 	・ 休み時間は、次の授業の準備をする。（移動教室の場合は、すばやく移動する。） ・ 教科係は、次時の担当教員と連絡を取り、授業準備を行う。 ・ 2分前着席をし、授業開始を待つ。 ・ 大きな声ではっきり挨拶をする。 起立・礼（お願いします）・着席 起立・礼（ありがとうございました）・着席 ・ 席を離れるときは、担当教員に断る。
「発言の仕方、聞き方」 	基本的な発言の仕方 ・ 挙手をし、指名されてから発言する。 ・ 指名されたら「はい」と返事をし、起立する。 ・ 「はい」は1回とする。 ・ 敬体「です」「ます」を用いて話す。 ・ みんなに聞こえる声量、速度で発言する。 ・ 先生に向かって発言するのではなく、学級全体を向いて発言する。 ・ 聞き手は、話し手のほうを向いて、発言をしっかり聞く。 ・ 友達の発言を笑ったり、発言をさえぎったりしない。 ・ 質問があれば、質問する。
「ノートの取り方」 	・ 教科ごとにノートを分ける。 ・ 授業課題(テーマ)と日時を最初を書く。 ・ 自分の役に立つノートを作る。 ・ 復習時やテスト勉強時のため、わかりやすくまとめる。 ・ 板書事項＋アルファを心がける。 例：補足説明、先生の話のメモ 自分の考え、友達の考え、授業についての自己評価 家庭学習での書き加え 等 ・ 定期テストやプリントを整理し、復習材料として活用する。（進級時や実力テストに備えて）
「PCの活用の仕方」	・ 授業中は、先生の指示があったときのみ使用する。 ・ 資料やカードを保存したり、整理したりし、復習材料として活用する。 ・ 家庭からでも TEAMS やオクリンクに入ることができる。また、スタディサプリや NHK for school などを積極的に活用する。 ・ 授業や学習に関係のない使い方はしない。
「提出物」 ・ 宿題や提出物についての約束事	・ 宿題や、提出物は期限を守って必ず提出する。期限を過ぎる場合は、直接教科担当の先生に報告に行く。提出する場合は、次のことを注意する。 例：・ 記名の確認。 ・ 白紙で出したり、途中までのものを出したりしない。 ・ 係や先生に直接渡す。

国語科

担当者：越智・駒形・太田

教科の目標

言葉による見方、考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成する。

国語の授業の受け方

- ① 進んで話し合ったり、工夫して書いたり、読書したりしましょう。
- ② 国語に関する基本的な事項や知識をきちんと身につけましょう。
- ③ 字形や文字の大きさ等に注意し、読みやすい文字で早く書くようにしましょう。



家庭学習の仕方

- ① 積極的に本や新聞を読むようにしましょう。
- ② 難しい言葉の意味を調べたり、漢字の予習復習をしましょう。
- ③ その日の授業を振り返り、ノートをまとめたり、ワーク等で確認したりしましょう。



【評価の規準】

次の3つの観点で評価します。

『知識・技能』

社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。

『思考・判断・表現』

「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。

『主体的に学習に取り組む態度』

言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉がもつ価値を認識しようとしているとともに、言語感覚を豊かにし、言葉を適切に使うようとしている。

【評価の方法】

次の方法で評価します。

- ・漢字テストの結果
- ・古典学習の成果
- ・定期テスト言語問題の結果
- ・書写の作品
- ・レポート等の内容 等

- ・発表する力、発表を聞く力
- ・音読、暗唱の力
- ・聞き取りテストの結果
- ・提出物、作文、レポート等の内容
- ・定期テストの読解問題、作文の結果
- ・授業中の言語活動の様子
- ・ノートの書き込みの内容 等

- ・学習に取り組む姿勢、態度
- ・ノートやレポート等における記述
- ・話す、聞く、書く活動への取り組みと結果
- ・学習への取り組みの自己評価、相互評価 等

【評価の重み】 観点の重みは通年同じです。

第1学年 国語科学習計画

繰り返し練習し、しっかり覚えましょう。

年間を通して、
取り組みます。

	単元・教材名	学習内容
通 年	【言語】漢字学習 【話す聞く】話し方、聞き方 【書く】課題作文の書き方	・漢字の読み書き ・いろいろな場面での話し方、聞き方、話し合い方 ・課題、条件作文の書き方
1 学 期	【書く】ガイダンス 【書く話す聞く】自己紹介 【読む】図書室の使い方 【言語】国語辞典と漢和辞典 【書く】原稿用紙の使い方 【話す聞く】メモの取り方 【読む】ふしぎ 【読む】桜蝶 【読む】自分の脳を知っていますか 【言語】言葉の単位 【言語】毛筆・硬筆（楷書・行書） 【読む】ベンチ 読書案内 【読む】河童と蛙 【書く】写真で「事実」を表現する	・国語の学習の仕方 ・紹介文の書き方 ・発表の仕方、聞き方 ・図書室の利用の仕方 ・国語辞典、漢和辞典の使い方 ・原稿用紙の使い方 ・メモの取り方 ・話し方 ・詩の技巧 ・登場人物の心情や行動の変化 ・文章の展開や表現 ・言葉の単位 ・硬筆（楷書）の練習 ・読書の幅を広げ方 ・群読の仕方 ・メディアと表現
2 学 期	【読む】オツベルと象 【言語】文の成分 【読む】森には魔法つかいがいる 【書く話す聞く】意見文の発表 【読む】子どもの権利 【読む】箱に入った桃太郎 竹取物語 故事成語 十二支 月の異名 【言語】日本語の音声、日本語の文字 【言語】漢字の部首、画数と活字の字体 漢字の音と訓 【言語】毛筆・硬筆（楷書・行書）	・構成と表現 ・擬声語、擬態語 ・文の成分 ・文章の構成や表現の特徴 ・意見文の書き方 ・意見文の発表の仕方 ・構成の検討や考えの形成・考えの共有 ・歴史的仮名遣い ・古文と現代文の違い ・暗唱 ・日本語の音と文字の特徴 ・共通語と方言 ・漢字の部首、音と訓 ・画数と活字の字体 ・毛筆の運筆法・行書の特徴と書き方
3 学 期	【読む】少年の日の思い出 【話す聞く】プレゼンテーション 【言語】単語のいろいろ 【読む】言葉がつなぐ世界遺産 【読む】四季の詩 【書く】学校パンフレット 【書く】学習の記録を整理しよう 【読む】持続可能な未来を創るために	・ものの見方 ・プレゼンテーションの仕方 ・単語のいろいろ ・ものの見方 ・詩の味わい方 ・見出しの書き方、紹介文の書き方 ・自己評価の仕方 ・1年間の振り返り

社会科



担当者：佐山、橋本、富田

【教科の目標】

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

社会の授業の受け方

- ① よく聞いて、考え、発言し、ノートをとりましょう。
- ② 様々な資料を授業で紹介し、考え、理解していく授業をおこないます。
- ③ 落ち着いて取り組む習慣を身につけ、ノートやプリントを上手にまとめるようにしましょう。

家庭学習・予習

- ①教科書を読み、大まかな内容をつかむ
 - ②課題プリントをやり、重要事項をチェックする（＋ノート整理）
- ・**復習** ノートを読み返し、ノート整理（＋宿題）する
- ・**テスト前** ①教・ノ・資を整理する（1週間前まで）
②プリント問題・ワークをドリルする（字の間違いに注意）



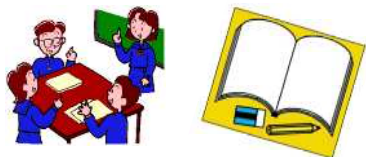
【評価の規準】

次の3つの観点で評価します。

【評価の方法】

次の方法で評価します。

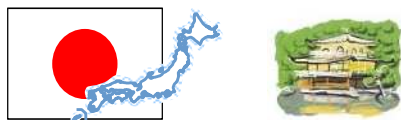
『知識・技能』



資料、ノート、レポートの読取・応用

- ・地図・統計・史料の読取
 - ・ノートのとり方、まとめ方
- 発言、説明、テスト**
- ・基本用語と事象とを理解し、説明できるか。
 - ・比較、関連づけて考察できるか。

『思考力・判断力・表現力等』



発言、説明、記述、テスト

- ・できごとを比較してとらえられるか。
- ・関連づけて考え、説明できるか。
- ・説明などの授業中の発言やまとめ活動での説明文が適切か。

『主体的に学習に取り組む態度』



授業への取り組み

- ・よく聞いて、考え、発言し、ノートをとれているか。
- ・授業中の姿勢、発言、作業
- ・事前の準備（課題プリントや道具）

【評価の重み】 観点の重みは通年同じです。

第1学年 学習計画

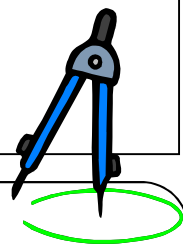
期	題材名・教材名	学 習 内 容
第1学期	地理的分野 1 世界と日本の姿 第1章 世界の姿 第2章 日本の姿	- 地球の姿をとらえ、世界のさまざまな国々について知る。 - 地球上の位置や日本の位置を表したり、地球儀と世界地図を比べたりする。 - 日本と世界との時差を知る。 - 日本の領域の特色をとらえる。
	2 世界のさまざまな地域 第1章 世界各地の人々の生活と環境	- 様々な地域の環境・気候について学ぶ。 - 環境・気候に合わせた住居や生活・文化を理解する。 - 雨温図の見方について知り、グラフの読み取りを行う。
第2学期	歴史的分野 第1章 歴史へのとびら 1 節 歴史をとらえる見方・考え方 2 節 身近な地域の歴史	- 西暦や元号など、時代をとらえるうえで必要な見方を理解する。 - 時代の特色をとらえる歴史の見方・考え方をとらえる。 - 人類出現時の様子や使用した道具などの生活様式を知る。
	第2章 古代までの日本 1 節 世界の古代文明と宗教のおこり 2 節 日本列島の誕生と大陸との交流 3 節 古代国家の歩みと東アジア世界	- 四大文明やギリシャ・ローマの類似点をとらえ、文明の発展について読み取る。 - 三大宗教の成立や特色について理解する。 - 日本列島の発展について知り、生活の変容をとらえる。 - 中国や朝鮮とのかかわりについて理解する。 - 天皇中心による統治や仏教と国とのかかわりを理解し、どのような時代であったか知る。
第3学期	地理的分野 2 世界のさまざまな地域 第2章 世界の諸地域	- 人口・文化・産業・経済などの面から各州の特色をとらえる。 - 日本とのちがいと各州のちがいを比較し、理解することで広い視野をもち、世界を知る。
	歴史的分野 第3章 中世の日本 1 節 武士の政権の成立 2 節 ユーラシアの動きと武士の政治の展開	- 武士がどのように台頭してきたのか背景を理解し、どのように政治の実権を握ったのか知る。 - モンゴルなど外国との関係をとらえる。 - 人々の生活がどのように変化したのか比較する。 - 文化のちがいについて古代と比較し、理解する。

数学科

担当者：加藤、永井、中里、紺野

【教科の目標】

- ・ 数学的活動を通して、基礎的・基本的な知識や技能を習得し、定着を図る。
- ・ 数学的活動の楽しさ、数学的な見方や考え方のよさを知り、それらを活用して考えたり判断したりしようとする態度を育成する。



数学の授業の受け方

- ① 習ったことを基にして、課題を解決するために試行錯誤しましょう。
- ② 自分の考えを、順序立てて分かりやすく説明できるようにしましょう。
- ③ 他の人の考えや先生の話をよく聞き、さまざまな考え方に興味をもちましょう。
- ④ 様々なことに疑問を持ち、分からないことは質問しましょう。

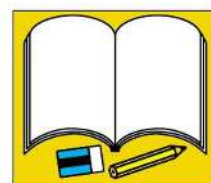
家庭学習の仕方

〈全学年〉

- ① 教科書やノートなどを使い、その日の授業の内容を復習しましょう。
- ② 教科書やワークの問題を繰り返し行いましょう。
- ③ 自分の考えを記述するなど発展的な問題に意欲的に取り組みましょう。

〈3学年〉

- ④ 自分が志望する上級学校の過去問題に取り組みましょう。



『知識・技能』

- ・ 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解している。
- ・ 事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。

- ・ 定期テスト・小テスト等の結果
- ・ 提出物(ワーク、ノート、プリントなど)
- ・ 授業目標の達成度の様子

『思考・判断・表現』

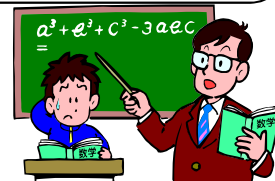
数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。

- ・ 定期テスト・小テスト等の結果
- ・ 提出物(ワーク、ノート、プリントなど)
- ・ 授業目標の達成度の様子

『主体的に学習に取り組む態度』

数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていたりしている。

- ・ 数学への興味、授業の取り組みの様子
- ・ 提出物(ワーク、ノート、自己評価、プリント、レポートなどの内容)



第1学年 学習計画

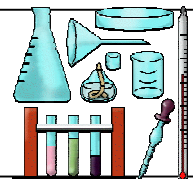
	単元・教材名	学習内容
1 学 期	1 章 正の数・負の数 1. 正の数・負の数 2. 正の数・負の数の計算 3. 正の数・負の数の利用	○ 正の数と負の数について具体的な場面での活動を通して理解し、その四則計算ができる。 ・ 負の数の必要性を知り、正の数と負の数の意味を理解する。 ・ 正の数と負の数の四則計算の意味を理解し、簡単な計算ができる。 ・ 自然数を素数の積としてあらわすことができる。
	2 章 文字の式 1. 文字を使った式 2. 文字式の計算	○ 文字を用いて関係や法則を式に表現したり式の意味をよみとったりする能力を養うとともに、文字を用いた式の計算ができる。 ・ 文字を用いることの意義を理解する。 ・ 文字を用いた式における乗法、除法の表し方を知る。 ・ 簡単な1次式の加法と減法の計算ができる。
2 学 期	3 章 方程式 1. 方程式 2. 方程式の利用	○ 方程式について理解し、一元一次方程式を用いることができる。 ・ 方程式及びその中の文字や解の意味を理解する。 ・ 等式の性質を見だし、方程式がそれに基づいて解けることを知る。 ・ 簡単な一元一次方程式を解くことができ、それを利用できる。
	4 章 変化と対応 1. 関数 2. 比例 3. 反比例 4. 比例、反比例の利用	○ 具体的な事象の中にある二つの数量の変化や対応を調べて、比例・反比例の関係を見だし、表現し考察することができる。 ・ 比例、反比例、関数の意味を理解する。 ・ 座標の意味を理解する。 ・ 比例、反比例を表、式、グラフで表し、それらの特徴を理解する。 ・ 比例、反比例の見方や考え方を活用できる。
3 学 期	5 章 平面図形 1. 直線と図形 2. 移動と作図 3. 円とおうぎ形	○ 基本的な図形を、見通しをもって作図する能力を伸ばすとともに、平面図形についての理解を深める。 ・ 線対称、点対称の意味を理解するとともに、対称性に着目して平面図形についての直観的な見方や考え方を深める。 ・ 角の二等分線、線分の垂直二等分線、垂線などの基本的な作図の方法を理解し、それを利用することができる。
	6 章 空間図形 1. 立体と空間図形 2. 立体の表面積と体積	○ 図形を観察し、操作や実験を通して考察し、空間図形についての理解を深める。また、図形の計量についての能力を伸ばす。 ・ 空間における直線や平面の位置関係を知る。 ・ 空間図形を直線や平面図形の運動によって構成されているものととらえたり空間図形を平面上に表現したりすることができる。 ・ おうぎ形の弧の長さや面積及び基本的な柱体、錐体の表面積と体積を求めることができる。
	7 章 データの活用 1. ヒストグラムと相対度数 2. データにもとづく確率	○ さまざまな資料の必要性和その意味を理解し、資料の傾向を読み取り、説明する能力を伸ばす。 ・ さまざまな資料の傾向を読み取り、説明することができる。 ・ 目的に応じて、自ら資料を収集し、表やグラフなどに整理することができる。
	課題学習 1 年間のまとめ	

理科

担当者：高戸、織田、富井、那須

【教科の目標】

自然に対する関心を高め、自らが問題意識をもって
自主的に自然を調べようとする力を育てる。



理科の授業の受け方

- ① 身近な自然事象に対して疑問を持つ。
- ② 疑問や課題に対して解決する方法を模索し、検討しよう。
- ③ 実験によって得られた結果から、考えられることをまとめよう。

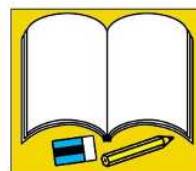
※授業中は私語をせず集中して話を聞き、新しい知識を得ようと頑張ろう

※実験は指示に従って安全に行うこと



家庭学習の仕方

- ① 教科書・ノート・資料集など予習・復習に必要なものはひととおり目を通しておき、学習計画をしっかりと立てよう。
- ② 授業後は、演習問題に取り組み、間違えたところをしっかりと直そう。



【評価の規準】

次の3つの観点で評価します。

I 『知識・技能』

- ・ 自然事象等における知識を習得している。
- ・ 実験器具等の操作を的確に行える。
- ・ 習得した知識及び技能を生活に関連付けて理解している。

II 『思考・判断・表現』

- ・ 自然事象等の知識や技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力が身につけている。

III 『主体的に学習に取り組む態度』

- ・ 知識や技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりするために、自らの学習状況を把握し、試行錯誤しながら学習を調整して学べる。

【評価の方法】

次の方法で評価します。

- 定期試験や小テストによって知識・技能の定着度を評価する。
- 実験、観察の様子や、パフォーマンステスト等により、技能を評価する。
- グラフの書き方や結果のまとめ方などによって知識及び技能を評価する。

- 実験、観察における考察の部分から思考力、表現力を評価する。
- 定期試験や小テストによって思考力、表現力を評価する。
- 話し合い活動やレポート等によって判断力等を評価する。

- 授業中の様子や、学習へ粘り強く取り組む態度、自身の学習への取り組みを調整する力等を総合的に評価する。

第1学年 学習計画

期	題材名・教材名	学 習 内 容
第1学期	1. いろいろな生物と その共通点 1章 植物の特徴と分類	・ 野外観察に出かけよう。 ・ 花はどのようなつくりをしているか。 ・ 葉や根はどのようなつくりをしているか。 ・ 植物にはどんな仲間があるか。
	2章 動物の特徴と分類	・ 動物のからだのつくりと生活にどんな関係があるか。 ・ 背骨のある動物・ない動物にはどんな動物がいるか。
第2学期	2. 身のまわりの物質 1章 いろいろな物質と その性質	・ 身のまわりの物を物質で区別する。 ・ 金属と金属でないものを区別する。 ・ 白い粉末の物質を区別するには。 ・ 質量と体積から物質を区別するには。 ・ 気体の性質を調べてみよう。 ・ 物質が水に溶けるということはどういうことか。 ・ 水に溶けている物質は取り出せるか。 ・ 物質はどのようにすがたをかえるか。 ・ 状態変化する温度は決まっているか。
	2章 いろいろな気体と その性質	
第3学期	3章 水溶液の性質	
	4章 物質の姿とその変化	
第3学期	3. 身近な物理現象 1章 光による現象	・ 身のまわりの物体を見てみよう。 ・ 光はどのように進むのか。 ・ 凸レンズでどのような像ができるか。
	2章 音による現象	・ 音の伝わり方を調べよう。
第3学期	3章 力による現象	・ 物体に力がはたらくとどうなるか。 ・ 力をどのように表すことができるか。 ・ 力のつり合いについて。
	4. 大地の成り立ちと変化 1章 身近な大地	・ 地層はどのようにしてつくられるか。 ・ 地層を調べよう。 ・ 地震はどのようなものか。 ・ 地震はどのようにして起こるか。 ・ 火山とはどのようなものか。 ・ 火成岩は何からできているか。 ・ 堆積岩は何からできているか。 ・ 化石から何がわかるか。
第3学期	2章 ゆれる大地	
	3章 火をふく大地	
第3学期	4章 語る大地	

音楽科

担当者：浅井

【教科の目標】

表現及び鑑賞の幅広い活動を通じて、音楽的な見方や考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質及び能力を育成し、豊かな情操を培う。

音楽科の授業の受け方

- ①「聴く」ことを大切にする。
→自分の声や音を聴く、友達の声や音を聴く、先生や仲間の説明やアドバイスを聴く、音楽を鑑賞する
- ② 積極的に授業に参加し、たくさんのことを感じ、思い切り表現する。
- ③ 互いに協力しあい、みんなで1つのものを創り上げるという意識を持って、成就感を味わう。

家庭学習の仕方

- ①日頃より幅広い音楽に関心を持って生活しましょう。
- ②器楽及び歌唱の反復練習を行うことも大切です。

【評価の規準】

次の3つの観点で評価します。

『知識・技能』

音楽を表現するための基礎的な技能を身に付ける。楽曲の音楽的な特徴を理解して聴き取る。

『思考・判断・表現』

音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるか。

『主体的に学習に取り組む態度』

音楽に親しみ、音楽を進んで表現し、鑑賞しようとする力があるか。音楽を楽しく聴取し、その良さや美しさを味わうことができるか

【評価の方法】

次の方法で総合的に評価します。

- ♪実技試験(歌唱、器楽、創作など)
- ♪鑑賞プリント
 - ・課題への記述内容
- ♪期末試験

♪授業での観察

- ・積極的に自分からよりよい表現を求め、意見を出せたり、友達と意見交換ができたり記述することができる。また、それを実践しようとしている。
- ・創作活動や、その取り組みの様子。

- ♪実技試験(歌唱、器楽、創作など)
- ♪期末試験

♪授業での取り組み

- ・音楽を大切にする心、提出物や課題に取り組む姿勢、授業への積極性などの様子。

♪鑑賞プリント

- ・課題への記述や取組。
- ・鑑賞活動の取組。

【評価の重み】表現活動の様子、実技試験、期末試験、授業への参加姿勢を重視して評価を行います。

第1学年学習計画

	題材(単元)名・教材名	学習内容
1 学 期	○オリエンテーション ○「校歌」、「夢に向かって」 ○鑑賞「和声と創意の試み」第1集「四季」より「春」 ○日本の歌「夏の思い出」 ○創作 旋律づくり ○合唱コンクールのクラス曲	・教科の目標、授業の受け方についての確認。 ・合唱のよさや豊かさを味わう。 ・歌詞の内容を味わい、表現豊かに歌う。 ・曲想と音楽の関わりについて理解し、弦楽合奏の表現に親しむ。 ・歌詞の内容を味わい、表現豊かに歌う。 ・音素材の特徴を理解し、創意工夫し創作を行う。 ・日本語の抑揚を生かした旋律づくりをする。 ・混声合唱の準備を始める。
2 学 期	○合唱コンクールのクラス曲 ○鑑賞「魔王」 ○器楽 アルトリコーダー ○鑑賞 日本とアジアの音楽の関わり	・混声合唱の響きを味わう。 ・曲想と音楽の構造と歌詞の内容との関わりや声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。 ・歌曲の形式の違いを味わいながら鑑賞する。 ・息のコントロールを意識しながら、曲想にふさわしい器楽表現を創意工夫し、アルトリコーダーの演奏に親しむ。 ・我が国やアジアの音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解し、響きや表現に親しむ。
3 学 期	○器楽 アルトリコーダー ○器楽 箏 ○鑑賞 「六段の調べ」 ○歌唱	・サミングや息のコントロールなどのリコーダーの奏法を身に付け、楽曲にふさわしい器楽表現を創意工夫する。 ・平調子の響きやリズム、構成上の違いによる音楽が生み出す雰囲気や表情などの変化に関心を持ち、箏による表現活動を楽しむ。 ・次年度に向けて、曲にふさわしい表現を学ぶ。

★題材や内容は、生徒の実態や活動の流れにあわせて変更する場合があります。

美術科

担当者：田中

【教科の目標】 「ものを見つめる目👁、何かを感じる心❤️、自由に考える頭🧠 自分の思いを表現する👉」

・表現や鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育み、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培います。

美術科の授業の受け方

- ① 授業に必要な物を忘れない。(用具がないと作業が進まない場合があります。)
- ② 話をよく聞く。(目標、制作の方法など課題を理解しましょう。)
- ③ 制作に集中して取り組む。(安全に計画的に制作し、自分の持てる力を出し切ろう)
- ④ 作品を大事にし、提出期日を守る。(心のこもった作品を作り上げ達成感を味わおう)

家庭学習の仕方

- ① 身の回りの物や自然物の形や色に関心を持ち、見る力や形を捉える力、感じ取る力を高めよう。
- ② 制作した作品は家族に見てもらい、飾ったり使ったりして心豊かな生活を創造しよう。
- ③ 授業で学んだことを生活の中で活かし、積み重ねを心がける。

【評価の規準】

次の3つの観点で評価します。

『知識・技能』

・対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができる。

『思考・判断・表現』

・造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めている。

『主体的に学習に取り組む態度』

・創造活動の喜びを味わい、美術を愛好し、感性を豊かに働かせている。
・表現及び鑑賞の学習に主体的に取り組んでいる。
・形や色彩などによる、コミュニケーションを通して、生活や社会と関わろうとしている。
・美術文化の継承と創造に向かう態度。

【評価の方法】

次の方法で評価します。

・材料や用具の生かし方、工夫。
・制作の順序や見通しをもち制作している。
・作品の制作過程及び完成作品など。
・表現、鑑賞ワークシートの記述など。

・対象を理解し、発想・構想している。
・アイデアスケッチ、下絵、練習課題など
・作品への考えや、感じ取ったことの説明。
・表現、鑑賞ワークシートの記述など。

・創作活動の様子。
・振り返りシートへの記述内容。
・ワークシートの記述や取り組み。
・鑑賞活動の取り組み。

※ 完成作品については、展覧会への出品・校内展示など積極的に行いますのでご承知おきください。

第1学年 学習計画

	題材(単元)名・教材名	学習内容
1 学 期	○オリエンテーション ～ものを見る目・感じる心～ ○見つめると見えてくるもの ○文字が生み出すイメージ レタリングと色彩学習 ○これは私のロッカーです！ ～こころの色ロッカーをデザインしよう～ ○日常の中の美術 美術館へ行こう	- 教科の目標、授業の約束など、美術の学習について知る。 - 身近にあるものをよく観察して描こう。 - 身近なところにあるデザインされた文字から、形や色彩から受ける印象やその違いについて考え、自分の名前をカッコよく描く。 - 色の特性や感情を感じ取り、配色の効果を知る。 - グラデーションを生かしたデザイン構成で配色、彩色する。 - 美術館とはどのようなものかを学習し、美術館へ足を運ぶ。
2 学 期	○そのものらしさを形にして ○つかもうとする手 ～デッサンをしよう～ ○なぜか気になる情景 ～色を重ねる～ ○暮らしを彩る土の造形	- 身の回りにあるものを観察して特徴を捉え、構成や材料、用具を工夫して立体で表現する。 - 観察することにより、色の深さを捉える。 - 手を観察し、デッサンの技術を学ぶ。 - 身近な場所を見つめ、感じ取った形や色彩の特徴や場所のイメージを、表現方法を工夫して表す。 - 土の特性を生かし、使う目的や機能、美しさなどから形や色彩を考え、作りたい技法で制作する。
3 学 期	○自然の美しさから生まれた ○形や色で伝えるシンボルマーク ○マイスプーン	- 自然の美しさを取り入れたデザインを鑑賞し考えたことなどを話し合う。 - 伝えたい内容やイメージをわかりやすい形や色でデザインする。 - 木のぬくもりや木肌の美しさから発想し、機能と合ったデザインを工夫する。伝統的な漆の塗りを味わう。

★題材や内容は、生徒の実態や制作の流れにあわせて変更する場合があります。

保健体育科

担当者：中川・秋葉・関山・佐藤

【教科の目標】

運動の特性や心身の発達などについて理解し、自らの課題を発見し、合理的な解決に向けて意欲的に取り組む姿勢を育成する。生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する。

【保健体育の授業の受け方】

- ①規律を守り、元気よく積極的に活動する。安全に活動するため指示をしっかりと聞いて行動する。
- ②自己の目標を設定し、目標達成のため「どうしたらできるか」を考える習慣を身につけて積極的に挑戦し、体力の向上を図る。
- ③運動の楽しさや喜びを味わい、公平に取り組み、互いに協力し、自己の責任を果たす。

【家庭学習の仕方】

- ①規則正しい生活を送る（体力の向上を図るためには、睡眠と食事がとても重要です。）
- ②ストレッチや筋力トレーニング（怪我をしにくい身体作りに努めましょう。）
- ③意識的に生活の中に運動を取り入れたり、部活動に積極的に参加する

【評価の基準】

次の3つの観点で評価します。

【評価の方法】

次の方法で評価します。

知識・技能

各運動の特性や成り立ち、行い方等を理解し、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。

- ・スキルテスト・運動の記録・技能の伸び
- ・授業内テスト(各競技・保健分野毎に小テストを実施)
- ・学習カード、授業プリントのポイントの理解 等

思考・判断・表現

自己の課題を発見し、課題解決に向けて工夫して実践する。自己や仲間の考えを他者に伝えている。

- ・学習カードの記述内容
- ・話し合い活動やペア活動での意見やアドバイス
- ・取り組み方の工夫、課題解決の工夫 等

主体的に学習に取り組む態度

公正、協力、責任、共生などに対して意欲をもち、健康・安全に留意して積極的に取り組んでいる。

- ・授業への意欲・積極性
- ・ワークシートなど提出物の内容
- ・安全への意識 等

※期末・学年末テストではテストを実施せず、各種目や保健分野において授業内テスト（スキルテスト・知識テスト）を行います。

令和7年度 保健体育 学習計画

	1年生 ・ 2年生	3年生
1 学 期	・ オリエンテーション ・ 体づくり運動（新体力テスト・ドリーム等含む） ・ 器械運動【マット運動】 ・ 体づくり運動、陸上競技【短距離・跳躍】 ※体育祭の取組みを含む ・ 水泳 ・ 保健分野 ・ 体育理論	・ オリエンテーション ・ 体づくり運動（新体力テスト・ドリーム等含む） ・ 器械運動【マット運動】 ・ 体づくり運動、陸上競技【短距離・跳躍】 ※体育祭の取組みを含む ・ 水泳 ・ 保健分野 ・ 体育理論
2 学 期	・ 陸上競技【長距離走】 ・ 球技 ゴール型【バスケットボール】 ・ 武道【柔道】 ・ ダンス 【創作ダンス・現代的なリズムのダンス】 ・ 保健分野 ・ 体育理論	・ 陸上競技【長距離走】 ・ 球技【バスケットボール】 《領域選択》 ●ダンス【現代的なリズムのダンス】 ●武道【柔道】 ・ 保健分野 ・ 体育理論
3 学 期	・ 球技 ゴール型【サッカー】 ・ 球技 ネット型【バレーボール】 ・ 球技 ベースボール型【ソフトボール】 ・ 保健分野 ・ 体育理論	- ゴール型【サッカー】 《種目選択》 ●球技 ネット型【バレーボール】 ●球技 ベースボール型【ソフトボール】 ・ 保健分野 ・ 体育理論

※変更になることもあります。

技術・家庭科

担当者：石山、竹沢

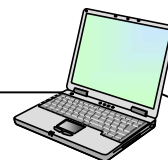
【教科の目標】

＜技術分野＞ ものづくりなど実践的・体験的な学習活動を通して、材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価活用し生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。

＜家庭分野＞ 衣食住に関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。

技術・家庭科の授業の受け方

- ① 週1回の授業です。見通しを持って準備をし、計画的に進めていきましょう！
- ② 作業中の安全には十分に注意し、真剣に取り組みましょう！次の人のためにも、用具を大切に使い、責任をもって片付けまで行いましょう！
- ③ 生活をよりよくするための工夫に気づき、自分なりに工夫をしていきましょう！



家庭学習の仕方

- ① プリントはファイルやノートに整理し、いつでも見直せるようにしておきましょう！
- ② 授業で学んだことをもとに、家庭生活での手伝いや修理を実践していきましょう！
- ③ つくった作品を大切に利用して、自分なりのものにも挑戦してみましょう！



【評価の規準】 次の3つの観点で評価します。【評価の方法】 次の方法で総合的に評価します。

【知識・技能】

実践的・体験的な学習活動を通して、基礎的な知識を理解して身につけているか、また、実際の生活の場面で必要とされている技術が身についたかどうかを評価します。

主にレポートや学習プリントの記入状況、テスト、学習過程における技能の習熟状況、完成した作品などにより評価します。

【思考・判断・表現】

課題や問題を見つけたときに論理的に考えて解決まで導けること、仲間と協力しながら問題に取り組む表現力を重視して、評価します。

習得した知識や技術を積極的に活用する、必要な情報を判断する。生活にどのように生かすことができるか具体的な手立てを考え、表現できる能力を評価します。



【主体的に学習に取り組む態度】

進んで学習に取り組む。学んだ内容を次回に生かす意欲や態度などを重視して、評価します。

主に作業や実習、実習計画立案への積極性や毎時間の学習への取り組み状況、作品の提出内容、レポートや作文、家庭での実習記録などを評価します。



第1学年 技術・家庭科学習計画

	単元・教材名	学習内容
1 学 期	技 ・3年間の授業について(ガイダンス) 〈材料と加工の技術〉 ・材料の性質や特徴 ・材料の加工方法 ・工具の特徴 ・製作のための技能、安全な作業 家 3年間の授業について(ガイダンス) 衣生活・住生活と自立 〈日常着の活用〉・自分らしく着よう ・衣服の選択と活用 〈日常着の手入れ〉衣服の手入れと補修	技 ○ガイダンス及び技術の進歩について ○材料の性質や特徴とその加工方法 ○使用目的に合う機能や構造 ○工具の特徴と安全な使い方 家 ○ガイダンス及び家庭科の内容について ○衣服の社会生活との関わりを考え目的に応じた着用や個性を生かす着用 ○衣服の手入れの方法や補修の必要性 
2 学 期	技 〈材料と加工の技術〉 ・問題の発見と課題の設定 ・設計の方法 ・製図 ・工具の特徴 ・製作のための技能、安全な作業 家 〈日常着の手入れ〉衣服の手入れと補修 〈衣生活・住生活などの生活の工夫〉 布を用いた物の製作	技 ○使用目的に合う機能や構造 ○製作物を決め工程表をつくる ○製図する ○材料の性質や特徴と加工法 ○工具の特徴と安全な使い方 ○木材による製作 ○部品の検査と修正 ○組み立て 家 ○補修の方法(なみ縫い・返し縫い・まつり縫い ボタン・スナップ付け)、ミシンの使い方につ いて、適切な縫い方 ○マスクケースの製作 
3 学 期	技 〈材料と加工の技術〉 ・製作のための技能、安全な作業 ・まとめと作品の記録 〈情報の技術〉 ・著作権や情報発信の責任を考えよう ・デジタル作品の製作 家 〈快適に住まう〉 ・住まいのはたらき ・安全な住まい ・快適な住まい	技 ○工具の特徴と安全な使い方 ○組み立て、仕上げ ○製作を振り返る ○情報発信の責任や情報モラルについて ○著作権などの知的所有権について ○作品の説明資料作成 家 ○風土にあった住まい ○空間のもつ働き、役割 ○住まいの安全対策 ○安全で快適な室内環境の整え方 

令和7年度 グローバル・スタディ科

担当者：伊藤、杉本、須田、森谷

【グローバル・スタディ科の目標】

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。



グローバル・スタディ科の授業の受け方

- ① 社会や世界、他者との関わりの中で相手を思いやってコミュニケーションを行う。
- ② 外国語特有の発音、イントネーションを意識し、恥ずかしがらずにスピーキング活動を行う。
- ③ 間違いを恐れず、非言語を活用しながら積極的に伝え合おうとする。
- ④ 意欲的に言語の習得に励む。

家庭学習の仕方

- ① 学習した教科書の内容を、話したり書いたりして自分の言葉で簡潔に説明する。
- ② パフォーマンステストに向けて原稿の暗記や、発表練習をする。
- ③ 学校・自宅でスタディサプリを活用し、予習・復習をする。
- ④ その日の授業で行った文法問題について、ワークの問題を自主学習ノートに解く。



【評価の規準】

➡ 次の3つの観点で評価します。

『知識・技能』

外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能が身に付いている。

『思考・判断・表現』

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる。

『主体的に学習に取り組む態度』

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとすることができる。

【評価の方法】

➡ 次の方法で評価します。

- ・ テーマ英作文、絵日記等の作品
- ・ パフォーマンステスト
- ▶ インタビューテスト（ALTとの会話含む）
- ▶ リーディングテスト（発音・アクセント等）等
- ・ 単語、連語、慣用表現テスト
- ・ 文法テスト（中間・期末考査含む）

- ・ 授業中の言語活動
- ・ パフォーマンステスト
- ▶ タスクリーディング ▶ ストーリーテリング
- ▶ スピーチ活動 ▶ メール文の作成 等
- ▶ 英語劇
- ・ 英作文テスト（中間・期末考査含む）

- ・ 授業中の言語活動
- ・ ノートやレポート等における記述
- ・ 単語、連語、慣用表現、小テスト
- ・ 表現物の作成（発表）
- ・ パフォーマンステスト ・ 自己評価/相互評価

第1学年 グローバル・スタディ科 学習計画

	単元・教材名	学習内容
1 学期	◆Get Ready 1~4：小学校で学んだ表現 (like/can/want to ~/When, Where の疑問文など) 5：アルファベットの文字と音、つづり字と 発音 6：英語の語順 (番外編：単語や文の書き方) ◆PROGRAM1: Let's Get to Know Our Classmates! (友達を作ろう) ◆Step 1:発表上手になろう ◆PROGRAM 2: You Are a School Reporter (I-Bの生 徒たち) ◆アクション コーナー:Action Corner ◆PROGRAM 3: Character General Election Advanced (タレントショーを開こう) ◆Step 2:考えを整理し、表現しよう ◆Our Project 1:あなたの知らない私 ◆Power-Up 1:ハンバーガーショップへ行 こう ◆PROGRAM 4 Let's Introduce Japanese Things! (Let's Enjoy Japanese Food.)	・英語すごろくや先生へのインタビューを通して、即興でやり取りをする。 ・聞き取った情報を参考に、プロフィールカードやクラブの入会届を作成する。 ・対話や音声などの英語を聞いて、単語を確認したり、文字を書いたりする。 ・英語の語順を理解し、自分が好きなものやほしいものを書く。 ・英語の単語や文の書き方を理解し、英文を書く。 ・新しい学級で友達のことをよく知るために、知りたいことについて質問したり、その質問に答えたりする活動を行う。 ・自己紹介をペアで発表し合い、聞き手は、発表者が話し方やアイコンタクトなどを意識しながら話せていたかを確認する。 ・ALTの先生に向けて、英語で学級新聞をつくることになった。そこで、学級の友達の素敵な一面を載せるために、学級新聞の記者となり、インタビュー活動を行う。 ・命令文の表現を使って、教師が言う英語が表す絵を指さしたり、教師が示した絵を英語で言ったりする。 ・「G・Sキャラクター総選挙」に向けて、自分が考えたオリジナルキャラクターがより多く得票できるように、そのキャラクターになりきって選挙演説をする。それぞれの演説後、「1年O組G・Sキャラクター」を決めるための投票をする。 ・マッピングで内容を整理して、好きなことについて伝える。 ・マッピングで内容を整理して、スピーチ原稿を書いたり、スピーチしたりする。 ・設定した状況に応じて、メニュー表を見ながら、店員役と客役に分かれてやり取りする。 ・さいたま市と姉妹都市提携を結んでいるニュージーランド・ハミルトン市から交換留学生が来日することになった。そこで、歓迎会を開き、日本のものや人について、交換留学生に英語で紹介する活動を行う。
2 学期	◆PROGRAM 5 Saitama Budding [Tsubomi] Day (Pajama Day) ◆Power-Up 2 持ち主をたずねよう	・さいたま市では、小学校6年生が中学校の見学をする「つばみの日」を設けている。そこで、小学校6年生に向けて中学校の先生や学校行事等について英語で説明することによって、中学校の特色を伝える活動を行う。 ・誰のものを表す表現を使って、やり取りする。

	◆PROGRAM 6 My Favorite Japanese Anime (The Way to School) ◆Step 3 話の組み立て方を考えよう ◆PROGRAM 7 You Are a SAITAMA Jr. Promoter! (Research on Australia) ◆Power-Up 3 学校案内をしよう ◆Step 4 聞き上手になろう ◆Our Project 2 : この人を知っていますか ◆PROGRAM 8 World Festivals(Happy New Year!) ◆Power-Up 4 : ショッピングをしよう	・○○（アニメや漫画名）のPR大使として、○○の海外ファンを増やすために、アニメフェスタに来場した海外の人に、そのアニメや漫画の登場人物などについて簡単に紹介するとともに、相手からの質問に答える活動を行う。 ・外国人観光客に紹介したい日本食について、スピーチ原稿を書く。 ・SAITAMA Jr.プロモーターとして、さいたま市や日本の魅力を伝えるために、プロモーション動画を作成し、世界に向けて情報を発信する。 ・さまざまな疑問詞の使い方を理解し、やり取りをする。 ・学校の地図を見ながら来校者役と生徒役に分かれて、やり取りする。 ・好きなアニメや漫画の登場人物についてペアで発表し合い、姿勢やアイコンタクト等を意識しながら聞く。 ・マッピングを活用し、紹介したい人について、話す内容や順番を考え、スピーチ原稿を書いたり、発表したりする。 ・World Festivalで○○（国名）の観光大使として、世界からたくさんの観光客を自国に呼び込むために、○○で行われている祭りについてアピールすることになった。グループで世界の祭りについて調べ、資料を使って様子を紹介し、質問に答える活動を行う。 ・欲しいものや値段等、条件に合ったものを店員役と客役に分かれてやり取りする。
3 学 期	◆PROGRAM 9 Writing an Email (A Trip to Finland) ◆Step 5 : 発表用メモを活用しよう ◆Power-Up 5 : インタビューを聞こう ◆Our Project 3 : 私が選んだ1枚 ◆PROGRAM 10 My Best Shot (Grandma Baba ' s Warming Ideas!) ◆Step 6 : 絵や写真を英語で表現しよう ◆Power-Up 6 : 絵はがきを書こう ◆Reading Steps	・PROGRAM 4 で来日したニュージーランド・ハミルトン市の交換留学生からの近況報告のメールが届いた。そのメールに返信するために、メール文を書く活動を行う。 ・作成した発表メモを頼りにしながら、発表する。 ・インタビュアーになりきって、ペアにたずねる。 ・マッピングを活用し、発表する写真について、話す内容や順番を考え、スピーチ原稿を書いたり、発表したりする。 ・海外の学校とのオンライン交流で、「私のとおきの写真」を使って、自分のことや日本の学校のことなどを紹介する。その写真をいつ撮ったのか、なぜその写真を選んだのかなど、気持ちを込めて熱く描写する活動を行う。 ・ある絵や写真についてペアに説明する。 ・海外の友達に絵はがきを書く。 ・物語や説明文を読んで内容を理解し、自分の考えや知りたいことなどを表す。

※ 第1学年では、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成します。

令和7年度 土屋中学校 特別の教科 道徳 シラバス

【道徳科の目標】

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

【道徳科の評価】

特に、学習活動において生徒が道徳的価値やそれらに関わる諸事情について他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を個人内評価として記述式で行う。

【学習の内容項目】

- ① 自ら考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任を持つことの大切さについて。
- ② 節度ある生活の大切さについて。
- ③ 自分を見つめ、向上心を持つとともに、個性を伸ばすことの大切さについて。
- ④ 目標に向かって希望と勇気を持ち、着実にやり遂げることの大切さについて。
- ⑤ 真実を大切にし、物事を探求して新しいものを創り出そうとすることの大切さについて。
- ⑥ 思いやりの心を持って人と接するとともに、多くの人の支えがあって現在の自分があることに感謝し、自らもそれに応えることの大切さについて。
- ⑦ 礼儀の意義を理解し、時と場に応じた言動をとることの大切さについて。
- ⑧ 友情の尊さを理解し、互いに励まし合い、高め合うことの大切さについて。
- ⑨ 人それぞれいろいろなものの見方や考え方があることを理解し、広い心を持って様々な人から学び、自らを高めることの大切さについて。
- ⑩ 法やきまりを守って、よりよい生活にすることの大切さについて。
- ⑪ 誰に対しても公平に接し、差別や偏見をしないことの大切さについて。
- ⑫ 社会の一員として、様々な計画に積極的に関わろうとすることの大切さについて。
- ⑬ 働くことの意義を理解し、将来の生き方について考えを深めることの大切さについて。
- ⑭ 家族を大切にし、自らも家族の一員として充実した家庭生活を築くことの大切さについて。
- ⑮ 集団の中での自分の役割と責任を自覚し、よりよい集団生活を築くことの大切さについて。
- ⑯ 郷土の伝統と文化を大切にし、その発展に努めることの大切さについて。
- ⑰ 日本人としての自覚を持って国を愛し、その発展に努めることの大切さについて。
- ⑱ 世界の中の日本人としての自覚を持ち、国際的視野に立って貢献することの大切さについて。
- ⑲ 自分だけでなく、様々な人の生命、あらゆる生命の大切さについて。
- ⑳ 自然環境を大切にすることの意義を理解し、自然愛護の意識を高めることの大切さについて。
- ㉑ 美しいものに感動する心を持ち、人間の力を超えたものを敬うことの大切さについて。
- ㉒ 自分の欠点や弱点を理解し、よりよく生きる喜びを見いだすことの大切さについて。

